

## 無数の灯が創り出す幻想的な世界 七ヶ谷雪ほたる

2月8日、今年で6回目を迎えた「七ヶ谷雪ほたる」が安角ふれあい自然の家で開催され、無数の灯りが来場者を出迎えました。主催はタランペクラブ（加藤克徳代表・鮎谷）。

当日は午後から、七ヶ谷地区の住民のほか、昨年、関東地方を襲った大雪のため参加できなかったIVUSA学生50人など総勢200人が参加し、約1000個の雪灯ろうや雪像づくりなどの作業が進められました。夕方には雪灯ろうに灯りがともされ、辺り一面が幻想的な世界へと変身。暗闇に浮かび上がる雪ほたるを見た来場者からは「きれい」「すごい」といった声が聞かれました。

村上市から訪れた伊藤真衣さんは「雪ほたるには初めてきました。どれもリアルに作られていて良かった。光がぼんやりしていてすごくきれいでした。また来てみたいし、今度は作ってみたい」と話していました。



## 香り-1 グランプリ優秀賞 材料は関川産の『黒文字』

関川産の香木『黒文字』や村上産の杉・檜から香り成分を抽出し、精油の製造販売を手掛けているのは、村上市在住でサクラ・ラボラトリーの社長を務める富樫万理さん。このほど開催された第1回香り-1グランプリで、関川産の黒文字を使った『越後の黒文字エッセンシャルオイル』が見事優秀賞を受賞し、報告を兼ね平田大六村長を訪問しました。

黒文字の精油は枝から蒸留し成分を抽出したもので、1kgの枝からとれる油はわずか1ml。植物の香りが濃縮されているオイルは、リラックス効果も含まれているなど好評を得ています。昨年、新潟市内に共同で統一ブランド『HATS UME』を立ち上げた富樫さんは「関川村の黒文字を使ってここまで来ることができたので、これからも関川村の材料を使って、村に還元していきたい」と話していました。

2月11日、村発足60周年を記念した『えちごせきかわ雪まつり』がふれあいどくむ及び周辺河川敷を会場に行われ、大勢の来場者で賑わいました。主催は村商工会（中倉虎治会長・辰田新）とえちごせきかわ雪まつり実行委員会（伊藤洋一実行委員長・上関）。

この日一番の盛り上がりを見せたのは、『第1回全日本スノーフラッグ選手権』で、8・28日先にセットされたフラッグをいち早く捕った人が勝ちという単純明快な競技に、村内外から約100人が参加。大会は団体戦、個人戦で争われ、32型テレビや3万円分の温泉利用券といった豪華賞品

豪華賞品を目指し  
雪上で熱きバトル!

## 第1回 全日本 スノーフラッグ選手権



を目指し、雪上で熱きバトルが繰り広げられました。中には、コスプレの衣装を身につけたり、上半身裸になって参加する選手もいて、大会は大盛り上がり。

団体戦に出場した国際ボランティア学生協会IVUSAの三浦信太郎さん（関西大学・1年）は「参加して雪の寒さを実感できました。選手だけでなく見ている人にも楽しんでほしかったし、チームとして特別賞を狙っていたので目立つことを考えました。すごく楽しかった。また来年、必ず村に帰ってきます」と笑顔がはじけていました。

準特選2点



船山優心 (関川小1年・勝蔵)



佐藤綾音 (関川小4年・朴坂)

特別賞1点



佐藤にこ (関川小4年・下関)

第60回新潟県書き初め大会  
入選作品

特別賞に佐藤にこさん(4年・下関)の作品が選ばれました。また、準特選には佐藤綾音さん(4年・朴坂)と船山優心さん(1年・勝蔵)の作品が選ばれました。【敬称略】

巨大どもんこに  
会場にぎわう!

第10回 おおいし・どもんこ祭り

今年で10回目を迎えた『おおいし・どもんこ祭り』が2月14日、大石ダム湖畔県民休養地を会場に開催され、巨大どもんこを楽しもうと村内外から多くの家族連れなどで賑わいました。主催は大石・山と川に親しむ会(高橋八男会長・大石)。

巨大どもんこは、高さ約5m、幅約10mの大きさで、前日に地元住民や国際ボランティア学生協会IVUSAの学生など約70人で作り上げたもの。まつりでは、巨大どもんこのほかに、スノーモービル体験や雪上サッカーなども行われ、子どもたちの賑やかな声が会場内で響き渡っていました。新発田市から家族で訪れた大矢菜々子さん(小学3年)は「どもんこの中が意外に暖かかった。ソリや竹スキーも楽しかった。また、来年来たい」と話していました。



食生活を学ぼう!  
男性のための料理教室

生活習慣病予防の食生活を学び、実際に調理を体験してもらおうと、1月30日、村民会館で『男性のための料理教室』が開催されました。30歳以上の男性を対象にした今回の教室には約10人の男性が参加。村の栄養士や食生活改善推進員のメンバーと一緒に調理実習を体験したほか、歯科指導や運動指導などを受けました。

調理実習では、きのこの炊き込みご飯や赤魚の煮つけなど栄養のバランスを考えた全5品に挑戦。参加者は慣れない手つきながらも、食生活改善推進員に教えてもらいながら調理を楽しみました。

参加者からは「薄味で素材の味を楽しめた」「分量をきちんと測るとおいしい食事ができることが分かった」「一緒に教わりながらやることで、家でも復習しやすくて良かった」といった感想が聞かれました。